



科学技術・イノベーション推進事務局

- 我が国の科学技術・イノベーション政策は、総合科学技術・イノベーション会議を司令塔として推進しており、内閣府特命担当大臣（科学技術政策）の下、その事務局を担い、科学技術・イノベーション政策に関する企画立案や総合調整、重要政策会議の運営などの幅広い事務を遂行しています。

参事官（総括担当）

参事官（統合戦略担当）

参事官（研究環境担当）

参事官（教育・人材担当）

参事官（大学改革・ファンド担当）

参事官（イノベーション推進担当）

参事官（事業推進総括担当）

参事官（重要課題担当）

参事官（未来革新研究推進担当）

参事官（原子力担当）

Cabinet Office

国際競争をリードする科学技術立国・日本

世界が新たな秩序を再編する流れの中で、科学技術・イノベーションは、激化する国家間競争の中核となっています。新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、この流れは加速されており、諸外国は、科学技術・イノベーション分野の更なる強化に向けた大規模な計画を立てています。

我が国としても、諸外国に遅れをとらないために、まず、理系、文系をはじめとする分野の垣根を乗り越え、研究開発の成果により社会を変革させるとともに、研究人材育成のための投資を大幅に充実させます。

また、AI や量子等の最先端技術の研究開発を加速させることにより、感染症や激甚化する災害など直面する脅威への対応や、次の成長の原動力につなげていきます。

これらの実現を目指し、かつてない大胆な予算を確保し、我が国が熾烈な国家間の研究開発競争をリードすべく、科学技術・イノベーション政策を推進していきます。

総合科学技術・イノベーション会議

総合科学技術・イノベーション会議（Council for Science, Technology and Innovation : CSTI）は、内閣総理大臣、科学技術政策担当大臣のリーダーシップの下、科学技術・イノベーション政策の推進のための司令塔として、我が国全体の科学技術・イノベーションを俯瞰し、総合的かつ基本的な政策の企画立案及び総合調整を目的とした政府の「重要政策に関する会議」の一つです。

内閣総理大臣を議長とし、内閣官房長官、科学技術政策担当大臣、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣、経済産業大臣、関係行政機関の長（日本学術会議会長）及び有識者7名の計14名で構成されています。



出典：首相官邸 HP

総合科学技術・イノベーション会議の様子

科学技術・イノベーション基本計画

「科学技術・イノベーション基本計画」は、科学技術・イノベーション基本法に基づき策定されている5か年の科学技術・イノベーション政策の基本方針です。

令和3年度から始まる第6期基本計画では、第5期基本計画で打ち出した「Society 5.0」という社会像をさらに具体化し、「サイバー空間とフィジカル空間の融合」という手段の活用を前提とした、「持続可能性と強靭性を備え、国民の安全・安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せ（well-being）を実現できる社会」とまとめています。

そして、Society 5.0を実現するために、科学技術・イノベーション政策の3つの柱として、①持続可能で強靭な社会への変革に向けたイノベーション力の強化、②新たな知識や価値の源泉となる研究力の強化、③新たな社会を支える教育・人材育成を掲げ、具体的な施策を記載しています。

■統合イノベーション戦略

総合科学技術・イノベーション会議が司令塔となり、科学技術・イノベーション基本計画で目指すSociety 5.0の実現に向け、毎年「統合イノベーション戦略」を策定しています。同戦略では、基本計画の進捗状況を確認するとともに、1年間の国内外における科学技術・イノベーションを巡る情勢を分析して、強化すべき課題、新たに取り組むべき課題を抽出して、施策の見直しを行っています。これまでの発想にとらわれない大胆な政策を、府省横断的かつ一体的に、迅速かつ確実に推進することによって、Society 5.0の実現を進めていきます。

大学ファンド

大学ファンドは、その運用益を活用し、科学技術・イノベーションの中核である大学の将来の研究基盤に対する長期かつ安定的な投資を抜本的に強化するとともに、制度改革、大学改革を車の両輪として進め、世界トップレベルの研究大学への成長を実現するものです。

世界の主要な大学では、大規模な基金の運用益の活用により経営基盤の強化、教育研究の実施等を推進しています。

他方、我が国では、若手研究者の不安定なポストの拡大、博士後期課程への入学者数の減少、大学の財政基盤の脆弱化などにより、我が国の大学の研究力が相対的に低下傾向にあると指摘されています。

大学ファンドは、これらの状況を踏まえ、これまでにない、全く新しい仕組みにより、我が国の研究力強化及び世界に伍する研究環境を創出することを目的としています。

現在、令和3年3月に総合科学技術・イノベーション会議の下に設置された世界と伍する研究大学専門調査会が中心となって、大学ファンドの検討作業を進めています。

戦略的イノベーション創造プログラム (Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program : SIP (エスアイピー))

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)は、総合科学技術・イノベーション会議が、府省・分野の枠を超えた産学官連携による研究開発を、基礎研究から出口(実用化・事業化)までを見据えて一貫通貫で取り組む国家プロジェクトです。社会的に不可欠で、日本の経済・産業競争力にとって重要な課題、プログラムディレクター及び予算配分を総合科学技術・イノベーション会議がトップダウンで決定し実施しています。平成30年度より5年間を第2期として、世界を先導し、日本再生の鍵を握る課題である、AI、自動運転、光・量子分野等における12課題の研究開発を推進しています。



SIP 第2期 12研究課題

ムーンショット型研究開発制度

ムーンショット型研究開発制度は、超高齢化社会や地球温暖化問題など重要な社会課題に対し、人々を魅了する野心的な目標(ムーンショット目標)を国が設定し、挑戦的な研究を推進する制度です。「Human Well-being」(人々の幸福)を目指し、その基盤となる社会・環境・経済の諸課題を解決すべく、7つのムーンショット目標を決定し、その研究開発を推進しています。また、コロナ禍による経済社会の変容を踏まえて、新たな目標を検討しています。

● 7つのムーンショット目標

- 目標1. 人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現
- 目標2. 超早期に疾患の予測・予防をすることができる社会を実現
- 目標3. AI とロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現
- 目標4. 地球環境再生に向けた持続可能な資源循環を実現
- 目標5. 未利用の生物機能等のフル活用により、地球規模でムリ・ムダのない持続的な食料供給産業を創出
- 目標6. 経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性型汎用量子コンピュータを実現
- 目標7. 2040年までに、主要な疾患を予防・克服し100歳まで健康不安なく人生を楽しむためのサステイナブルな医療・介護システムを実現

